

心を操る寄生虫

永田円了



Parasite Manipulation

寄生虫は巧みに生物の体内に入り込み、栄養を吸収し、本体を操る。最悪な場合、本体である宿主を食い潰してしまうこともある。しかし宿主はこの寄生虫の存在にまったく気づくことなく、その一生を終える。

さて人間の場合はどうであろうか。もし心に寄生虫が入り込み、宿主を操ろうとしているとしたら、...。また、果たして人間はこの寄生虫の存在に気づくことができるのであろうか。今回のテーマは、この目に見えない“寄生虫”の行動を明らかにしたい。

お金があると、人は意地悪になる

社会心理学者、ポール・ピフは、モノポリーゲームの実験を通して、人の心理の動きを観察した。コイントスで偶然に決まった金持ち側は、より勝ち組になるにつれ、態度が横柄になり相手を支配しようとする心理が生まれてくることを発見する。

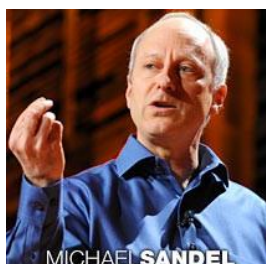
また、横断歩道の実験では、歩行者が渡ろうとしている時の運転手の態度を観察した。数日間にわたって何百台も調査した結果、運転する車種によって運転手の異なった態度が判明した。より安い車は、歩行者が横断歩道を渡ろうとすると、ほとんどの場合歩行者のために止まった。しかし、高級な車になればなるほど、止まらない率は高まり、BMW等の高級車では、止まらない率は50%にもなった。



この行動は一体何を意味しているのだろうか。どのような目に見えない寄生虫が運転手の心に入り込んでいるのだろうか。“俺はお前より上なんだ”、だから何をしても許される、というような寄生虫が入り込み、巧みに人の心を操っているとは考えられないだろうか。

市民生活に市場主義が入り込むと

市場経済は需要と供給の関係で成り立ち、経済はそれで発展する。しかしもしこの市場主義を市民生活に持ち込むとどうなるか。米国カリフォルニア州サンタバーバラの刑務所では、お金さえ出せばより良い部屋に入れる。一泊82ドルでより清潔でアップグレードな刑務所房に入ることが可能なのである。また、テーマパークでは、長い列に並ばなくとも、お金さえ払えば列の先頭に行くことができる。



MICHAEL SANDEL

米国ハーバード大学のサンデル教授は、このような市場主義が市民生活を支配し始めていることを懸念する。一体どのような寄生虫が入り込もうとしているのだろうか。高級な時計や車などは、お金を払って買うことはなんの抵抗もない。しかしもし生活の基本になるものまでが、人の心までもが、お金で取り引きされるとしたら、この世はどうなるのか。“お金市場主義”という寄生虫をなにかがなんでも駆除しなければならない。

この**寄生虫の正体は、エゴ**である。表面上はいろいろな言葉で表現されているが、その黒幕は人間のエゴである。The Power of Now の著者、エックハルト・トールは、エゴを次のよう定義する。

エゴとは、自分でも気づかない間に、思考と自分を同一視することで作られる“**にせものの自分**”であると。

<事例 DVD>

スーパープレゼンテーション/寄生虫の世界へようこそ
 スーパープレゼンテーション/お金があると、人は意地悪くなる
 サンデル教授/市民生活が市場主義になったらどうなる...
 スーパープレゼンテーション/本当の自分になる、
 フットボール選手が手芸の本を書く
 ハートネット TV/僕らのレストラン/近久 学(36)統合失調症から解放へ
 村上龍作「55歳からのハローライフ」第1話『キャンピングカー』
 相手の時間を受け入れる
 歌・ルチアーノ・パバロッチ「カルーソ」寄生虫に支配されていないパバロ

円了のホームページ：www.enryo.jp

